

## VII 研究のまとめ

- 1 児童・生徒の支援要求傾向を把握することで、具体的指導に当たって、教師が配慮すべき点が明らかになった。
- 2 児童・生徒の期待に配慮した支援や具体的方策を講じることによって、学習への関心、意欲が高まり、持続した。
- 3 考える目的や内容がわかるような具体的方策によって、思考を促し、思考活動を活発にすることができた。
- 4 情意面を活性化して思考を促す方策は、児童・生徒の知識・理解、技能の獲得に有効であった。

### [引用文献]

- 注 1) 福島県教育庁義務教育課編「基礎学力向上の手引」P7 (平成7年)  
注 2) 文部省「理科における学習指導と評価の工夫・改善」P32 大日本図書 (平成5年)

### [参考文献]

- (1) 福島県教育センター科学技術教育部「情意面を重視した授業のあり方に関する実践的研究」(平成7年度)
- (2) 北尾倫彦編「思考力・判断力」 図書文化社 (1995)
- (3) 福島県教育委員会「新しい学力観に立った学習指導と評価の工夫」(平成8年)
- (4) 広島県立教育センター「研究紀要 第23号」(1996)
- (5) 文部省「中等教育資料」(平成8年10月号)

### 〈研究協力員〉

耶麻郡塩川町立塩川小学校	山内 徹
郡山市立安積第一小学校	武田 修一
福島市立平野中学校	佐藤 貴弘
郡山市立郡山第七中学校	伊藤 恒明
福島県立福島北高等学校	菅野 諭
福島県立福島東高等学校	鈴木 浩一